

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071200830		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	和歌山県岩出市山591		
自己評価作成日	平成31年4月1日	評価結果市町村受理日	令和元年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3071200830-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年5月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念「誰もが利用したいと思えるグループホームを目指します」と掲げ、ご利用者様と職員が共に笑顔で寄り添うケアを行い、家庭的な雰囲気大切にしています。ご利用者様がグループホームでその人らしく、安心して過ごして頂き、楽しみのある生活を送って頂けるよう努めています。職員間のチームワークを大切に、ご利用者個々の思いや体調面、リスク管理についてケース会議を通して話し合い職員一丸となって取り組んでいます。またグループホームの暮らしを継続できるよう、その方にとって今何が大切かを職員間で話し合い取り組んでいます。楽しみ事として毎月の行事、季節の行事の企画、併設しているデイサービスとも交流を図りご利用者様に楽しんで頂ける合同行事を企画させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは個々の利用者の思いに寄り添いながら、利用者のできることややりたいことを大切にされた支援に努めています。日々の利用者との関わりの中で意見や要望を聞き、食べたいものを献立に取り入れ利用者にも下ごしらえや味見、盛り付けなどのできることに携わってもらい食事を作り、時には鍋料理や巻き寿司をしたり、たこ焼きやパフェなどのおやつ作りを楽しんでいます。また家族との関係性も良く意見を言いやすい雰囲気作りを心がけ、運営推進会議や家族会等の機会をつくり意見を聞いたり家族同士の交流の機会となっています。意見を受けて併設事業所と定期的な合同行事を行い交流したり理学療法士のアドバイスを受けた体操の実施に繋げるなど、サービスの向上に活かし更に活気のあるホームとなるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自で作成した理念を、毎朝朝礼時に唱和し、職員間で共有している。ミーティングやケース会議時に理念に沿って実践できる様職員間で話し合いを行っている。	法人内のグループホーム共通の理念があり、リビングに掲示し毎朝唱和しています。毎年理念を基に事業計画や目標を決めて実践できるように取り組んでいます。ミーティング等で話し合う中で理念に沿って支援の方向性を検討したり振り返る機会にもなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事や、美化活動に参加させて頂いている。中学生の職場体験の受け入れを行い、地域との交流に努めている。	地域の行事である美化活動や溝掃除に職員が参加したり、夏祭りに利用者に参加する他、秋祭りにはみこしがホームに立ち寄ってくれたり子どもから花をもらうなどの交流をしています。中学生の体験学習を受け入れ、併設するデイサービスに音楽などのボランティアが来訪した際にはホームの利用者も一緒に楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の方に対するの支援について話し合いを行い情報交換をおこなっている。今年度センターから地域の方に向けての介護教室の開催を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には地区区長、民生委員、市職員、ご家族がされている。事業所からの活動報告、入居者の状況等の報告を行い、参加者からの意見を頂き、サービスの向上に繋がる様取り組んでいる。	2ヶ月に1回複数の家族や市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、地区会長の参加を得て運営推進会議を行っています。ホームから利用者の状況や行事、消防訓練等の報告を行い、参加者からも地域の状況や民生委員の活動を聞いたり意見交換をしています。地域行事の予定を聞き祭りや美化活動等に参加する等、会議をサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員も毎回参加されている。ホームの状況や入居者の状況、待機者の状況を伝えている。認知症キャラバンメイトに登録している。	市職員が運営推進会議に出席しておりホームの状況を理解してもらっています。地域ケア会議の案内や法人を通して感染症などの注意喚起を受けたり、昨年の台風後には緊急連絡先の登録を行うなど、都度連絡を取り合っています。認知症キャラバンメイトの登録を行い協力をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束適正委員会を設置し、日頃から身体拘束をしていないか業務の中やミーティング時に話し合いを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議でも身体拘束に関しての状況を伝えている。	年に2回身体拘束についての研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組み、言葉による行動を制止することについても見られたときに注意したり声の掛け方について話し合っています。離床センサーを使用する際には家族に承諾を得ており、ケース会議にて必要性を検討しています。	

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加を含め、ミーティング時には研修内容を職員間で虐待防止や不適切ケアの防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修に参加し、事業所でフィードバックを行っている。また支援が必要な方に対しては関係者と話し合いを持つようしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やご家族の思いを把握するように努め入居に対する不安を軽減できるように努めている。また事業所の方針やリスクについて十分に説明を行い納得した上で入居して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご利用者の声に耳を傾け、反映できるように努めている。またご家族とは面会時にコミュニケーションを図りご家族の思いも反映できるように努めている。	利用者や日々の関わりの中で意見や要望を聞き、食べたいものを献立に取り入れたい買い物に出掛けるなど個別のケアに反映しています。家族には毎月手紙で日々の様子を伝え、面会時や家族会、運営推進会議等の際に意見や要望を聞いています。家族の意見を受けて併設するデイサービスと定期的な合同行事を行い交流したり、理学療法士のアドバイスを受けた体操の実施に繋げるなどサービスの向上や運営に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や業務の中で職員個々の意見が話しやすいように日頃から雰囲気作りに心掛け、サービスの反映に繋げている。	日ごろより所長や管理者は話しやすい関係性が作れるよう配慮し、日常の業務の中や毎月行うミーティングで意見交換をしています。行事は担当者を決めて企画し職員主体に行ったり、外出の機会を増やすために業務を見直すなど職員の意見を運営に反映しています。また年に2回定期的個人面談の他、職員の様子を見て随時個人面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々にやりがいを持ち、向上心を持って働ける環境作りに努めている。年2回の人事考課を行い面談を行い職員のモチベーションの維持と向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に出来る限り参加できるように働きかけている。職員個々が定期的にチェックリストや業務シートを用いて自己評価を行い、自身のケアを見直す機会を持っている。		

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し交流を図り、サービスの質の向上に繋げて居る		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、生活状況の把握に努めている。ご本人の思いを聞く機会を持ち、不安を軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや不安、どういった生活を欲しいか耳を傾け、どのような支援を行っていくかを話し合う様にし、ご家族との関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いを汲み取り、必要とされている支援を見極め必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との信頼関係を大切にし、食事の盛り付けや洗濯物置き等、ご利用者と職員が一緒に行い、共に過ごせる時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やご家族との行事の時等で、ご本人の様子や状態等を伝えるようにし、情報の共有を行っている。また利用者に対してのケアについても一緒に考え方向性をご家族と共に検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で過ごされていた時の様に、馴染みの美容室やデイサービスに足を運んで頂けるように、馴染みの場所との関係が途切れない様に、ご家族にも協力を得ながら取り組んでいる。	日々のコミュニケーションから親しんできた場所や馴染みの人などを聞くように関わっています。自宅に帰りたい方には家族と相談し自宅への外出を支援したり、花見の行事の場所が馴染みの場所であり懐かしむ方もいます。孫やひ孫、友人、以前近所に住んでいた方などの来訪があった時には、居室やリビングの好みの場所でゆっくり過ごせるよう配慮しています。	

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の認知症の症状の違いでトラブルになられることもあるので、日頃から利用者同士の会話や関係に気をつけ、利用者同士の関係が円滑になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所や病院に移られた方にも、面会に行ったり、事業所や病院に対しての情報提供も行い、契約終了後の関係も大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはご家族に生活状況や希望を聞き意向の把握を務めている。入居後は利用者との関わりの時間を大切に、ご本人の言葉や表情から思いを把握し、その人らしく過ごして頂ける様に努めている	入居時に家族に生活歴や家族構成、習慣、好み等をアセスメントに記入してもらい、面談も行い意向を聞いています。入居後は日々の関わりの中で得られた情報は記録に残すとともにカンファレンスで共有し、思いの把握が困難な方は家族に聞いた表情や言動から汲み取り検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、入居時にはご家族に生活歴等を記入して頂いたり、訪問時に情報を得るなど暮らし方や生活のリズムの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を細かく行い、職員間で共有し、その人の暮らしぶりや生活リズム、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間だけでなく、ご本人の言葉やご家族の思いを汲み取り、介護計画の作成を行っている。また毎月のケース会議で職員間でケアについて意見を出し合い、ケアの統一に取り組んでいる。	本人や家族の思い、アセスメントのもと介護計画を作成しています。見直しは6ヶ月ごとを基本とし、ケース会議を行いモニタリングや再アセスメントを行っています。毎月個々の利用者についてカンファレンスを行ったり、3ヶ月ごとに利用者のできることやわかることの変化について見直しています。また家族の意向を再確認したり受診の際の情報を計画に反映するよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の生活記録に記入し、心身の状態等細かく記録し、職員間で情報を共有し、介護計画にも反映している。		

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りその人にとって必要とされる支援に繋げられるように柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーやご近所のパン屋への買い物を通してその人らしく安心して過ごして頂ける様に取り組んでいる。中学生の職場体験等を受け入れ地域交流に繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望されるかかりつけ医に、ご家族が付き添い受診して頂き、ご家族が同行が不可能な時は職員が代行している。	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明し選んでもらい、ほとんどの方が継続し家族と受診しています。受診の際には必要な情報をメモにして家族に渡したり直接医師に電話で伝えていきます。馴染みの歯科の往診や口腔ケアを受けている方もいます。また協力医は24時間対応で体調不良時などかかりつけ医が対応できない休日等に対応してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護職員と連携をとっており、利用者の状態に応じ相談しながら、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な支援を可能な範囲で行い、日頃の状況等、病院関係者に情報の提供を行っている。入院中には職員が病院に面会に出向き、早期退院できるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの対応について、入居時に説明している。しっかりと利用者の状態を見極め重度化や医療が必要となった場合には、早い段階で主治医、ご家族と話し合い、状況に応じた対応を行っている。	入居時に重度化した場合の対応や看取りの支援をしていないことを説明しています。入浴が困難になるなど重度化が見られた場合には家族に再度説明し、法人の他施設への転居を含め話し合っています。また、できる限りホームで過ごせるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や講習会に参加し、急変時に対応できるように努めている。		

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員間で災害時の対応について話し合い、地域の消防団の方に避難訓練に参加して頂き、事業所の状況を理解して頂き、災害時の対応方法についてアドバイスして頂いている。	年に2回行う消防訓練は1回は消防団の立会いの下、1回は独自で昼夜を想定して行っています。通報や避難経路の確認、水消火器での初期消火の訓練を行っています。運営推進会議では地域の方に訓練の案内をしたり協力依頼をしています。非常用トイレやランタン、カセットコンロなどの備品を置き、水や食料などは準備予定です。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの思いに寄り添い、プライバシーを損ねないように配慮し、日頃の声かけや対応について、ミーティング時等で職員間で話し合い意識づけている。	年に1回接遇研修を行い、馴れ合いにならず目上の方としての対応を心がけています。また、認知症ケアや研修を年に4回行う中でも尊厳を大切に考えながら、個々に合った対応の仕方についても話し合っています。不適切な対応があれば所長や管理者が注意したり、職員間でも注意し合える関係を築いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の食べたい物を聞きメニューに取り入れたり、本人の思いを確認した上で、何事にも本人の自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせ、その人らしい生活を過ごせるように、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できるような声かけを行い、自己決定できる方に対してはご本人でオシャレが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせ、調理や盛り付け等一緒に行っている。また食事を楽しみ、の時間と大切に、手作りで季節の食材を取り入れる心がけている。	スーパーからの配達を中心に魚やおやつなどは買い物に行き、その日の冷蔵庫にあるもので利用者の希望を聞きながら献立を決めています。利用者にも下ごしらえや味見、盛り付けなどの出来ることに携わってもらい食事作りをしています。誕生日などは特に好きなものを作ったり、鍋料理や巻き寿司など季節に合わせて楽しみ、また、外食で寿司屋や個別でうどんを食べに行くなどの支援もしています。たこ焼きやパフェベビーカステラなどのおやつを手作りすることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士に食事内容を確認して頂きアドバイスを受けている。また半年に一度一人ひとりの食事量や体重、嚥下状態などを管理栄養士にこまかく見て頂き栄養管理に努めている。		

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝時に一人ひとりの状態に合わせて見守りや介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況をこまかく記録に残し、個々の排泄パターンを把握して、トイレでの排泄の支援を行っている。状態に合わせてオムツを外す支援を行っている	1ヶ月分が見ることが出来る排泄表や日々の記録から排泄の状況を把握し、個々のパターンや仕草などの様子を見てトイレに行けるように支援しています。入居後その人のタイミングで排泄支援をすることで失敗が減り、紙パンツから布の下着へ変更した方もいます。申し送りや日々職員間で話し合い自立に向かうよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、食事に繊維の多い食材や乳製品を取り入れ、便秘の方には主治医に相談し緩下剤等を処方して頂き、本人の状態に合わせて調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に合わせて、一人ひとりにゆっくりと入浴して頂いたり、入浴の時間を楽しんで頂くよう支援している	毎日入浴の準備を行い午後の時間帯に隔日に入れるように声をかけ、体調や希望に合わせて入浴できるように支援しています。拒否される時には時間帯やタイミングを変えながら入浴につなげています。時には入浴剤を使用したり、好みのシャンプーやリンスを持参する方もおり、ゆっくりとコミュニケーションをとりながら入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて日中も休息して頂いたり、また日中活動量を多くし夜間安眠できるように一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、通院ノート、服薬表に内容を記入し、変更があれば申し送りをし、職員間で情報を共有している。生活状況表に服薬を記入し、症状の変化に合わせ、ご家族、主治医に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を把握し、今まで暮らしてきた過程を踏まえ、その人にあった取り組みを提供し、楽しみややりがいに繋がる支援を行っている。		

グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外出の時間を設け、ドライブ等の機会を持ち、花見や遠足、庭でのランチなど楽しめるよう支援している。また、ご家族との外出やご本人の希望によりご自宅に出かける等支援している。	気候や天気の良い時に散歩や買い物、ドライブに出掛け、更に週に1度は入浴のない日を作り外出できるよう取り組んでいます。季節ごとに初詣や桜や梅などの花見ドライブ、紅葉狩りなどに出掛けています。時には駐車場にテーブルを出し食事を楽しむこともあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方に了解を得て事業所がお金を預かり管理しているが、能力に応じご自身でお金を所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じいつでも電話をかけて頂けるようにし、年賀状等季節の便りとしてご家族に書いて頂くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんで作成した季節の貼り絵や、庭で咲いた花等季節感を感じて頂けるように取り組んでいる。居心地良く過ごして頂けるように環境作りに配慮している。	共有空間には生花や折り紙で作った鯉のぼりを飾るなど季節を感じられるように配慮しています。利用者同士の相性なども考慮してテーブルの配置を決めたり、リビングや廊下にソファや畳ベンチを置き、過ごす場所を選び思い思いに過ごせるよう支援しています。居室横には行事や利用者の日々の様子の写真を飾り定期的に入れ替え訪問した家族の楽しみにもなっています。毎日換気や掃除を行い利用者にもほうき掛けをする方もおり、清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係に配慮し、お互いに居心地良く過ごせるように所々にソファを置き、居場所の工夫作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込んで頂いたり、使い慣れた布団を使用され安心して過ごして頂ける居室づくりに取り組んでいる。	居室はクローゼットや洗面台の備え付けられており、入居時に使い慣れた物を持って来てもらう説明し使い慣れた鏡台やテレビ、棚などを家族と相談し配置しています。家族の写真を飾ったり、塗り絵やパズルができるようテーブルや椅子を持って来て楽しんでいる方もいます。毎日掃除を行い清潔を保ち個々の利用者が心地よく過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差をなくし、手すりを配置し安全に過ごして頂けるようにし、トイレ、浴室、居室がわかりやすいように表示させて頂き自立した生活が送れるように工夫している。		